あつぎ郷土博物館NEWS 10月号

好評開催中

企画展「芸術の地あつぎⅠ ―近世あつぎの美術―」②
厚木市指定文化財(絵画)一挙公開！

あつぎ郷土博物館では、10月10日(土)から12月6日(日)まで、企画展「芸術の地あつぎⅠ ―近世あつぎの美術―」を開催します。展示は繊細な日本画が中心となり作品保護のため、会期を前期（10月10日～11月8日）と後期（11月10日～12月6日）の二期に分け、現在は前期が開催中です。

単に指定文化財として、美的な感動を得るだけではなく、作品を如何に身近に引き寄せて御覧いただけるのか。それが本展覧会の開催意義です。

臨済宗養徳寺に伝わる「仏涅槃図（ぶつねはんず）」。涅槃図とは釈迦入滅の場面を描いたもので２月 15 日の涅槃会に用いられます。本作は、江戸時代末から明治にかけて荻野地域で活躍した絵師・井上五川が描き、絵画作品として初めて厚木市指定文化財となりました。大画面いっぱいに釈迦の死を悼（いた）む人々の慟哭（どうこく）、生き物の悲哀が描かれています。作品は、弘化２年（1845）７月に没した真浄院諦念妙観大姉の菩提（ぼだい）供養のため、夫で下荻野村住の小野久右衛門が施主となり制作、翌年養徳寺の什物（じゅうもつ）として奉納されました。そこに込められていたのは妻を亡くした夫の悲しみと菩提を弔う祈りの心でもありました。

＊

私たちと同じあつぎに生き、暮らした人々が、日々の暮らしの中で喜び悲しみ、そして祈りを捧げた作品です。どうぞ、身近な作品として御鑑賞ください。皆様の御来館をお待ちしています。



仏涅槃図　井上五川筆　厚木市指定文化財(絵画第１号)
弘化３（1846）年７月　　養徳寺所蔵・当館寄託

●**会　期**：１２月６日（日）まで
●**入館料**：無　料
●**講演会、関連行事参加費**：無料

2026　October　　—みんなで作る「あつぎ百科」—

あつぎ郷土博物館　10月の予定

日	曜日	行　事　内　容	講師等	時　間
企画展「芸術の地あつぎⅠ —近世あつぎの美術—」12月6日まで開催				
8 9	木 金	臨　時　休　館（企画展　展示工事のため）		
NEW 12	月	あつぎを彩る近世絵画　その魅力を紐解く　〈申込制〉	佐伯英里子 (文化財保護審議会委員)	13:30 ～15:30
15	木	あつぎの古文書解読会　＜参加自由＞	古文書解読会　会員	13:00 ～16:00
NEW 17	土	ギャラリー･トーク　あつぎの芸術家①	当館学芸員	13:30～ 14:00
NEW 18	日	近世古文書（襖下張り文書）裏打ち体験〈申込制〉	当館学芸員	13:30 ～15:30
22	木	あつぎの古文書解読会　＜参加自由＞	古文書解読会　会員	13:00 ～16:00
26	月	休　館　日		

新収蔵資料紹介

●博物館所蔵　井上五川の「龍図」いろいろ

開催中の展覧会関連資料として、上依知の齊藤様から井上五川の「龍図」をご寄贈いただきました。板絵（天井絵）を含めれば、博物館所蔵の６頭目の龍となります。今回は「七十六偶言五川」の落款があり、慶應３年(1867)のものです（＝写真）。

五川の龍は有名で、18 歳の時から塩川滝の飛龍権現に祈願、滝に打たれ心身の練磨に努めたといいます。五川 40 歳の天保元年（1830）、雨降山（大山）眺望の折、昇龍が天空を昇るのを見てその姿を現実に感得し、黒龍図の完成を見たと「画師井上五川」(中村昌治)にあります。縁起がいいと求める人の多かった五川の龍図ですが、五川は他にも庚申、地神など講中の軸も多く手がけました。五川に門人が多かったのは、身近に作品があり、触れることができたからでしょうか。



●あつぎ郷土博物館　**開館時間**　午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）
休 館 日　毎月最終月曜日　年末年始（12/29～1/3）

●古民家岸邸　**開館時間**　午前10時から午後3時まで（入館は午後2時30分まで）
休 館 日　月曜日と火曜日（祝日の場合は翌平日）　12/25～1/3



（申込み・問合せ）あつぎ郷土博物館
〒243-0206　厚木市下川入１３６６－４　電話 046－225－2515
Mail 8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp　FAX 046－246－3005